



こんにちは!! やまがたむら



議会です

発行：長野県山形村議会（代表）三澤一男

編集：議会広報編集特別委員会



雪中の令和4年度山形村消防団辞令交付式

4月1日 AM 6:00



- 第1回 議会定例会 2
令和4年度予算可決
- 一般質問の要約 3～6

- わたしの思い
～議員活動4年間を終えて～ 6～8

令和4年度予算可決

令和4年 第1回議会定例会

第1回を2月28日に開会し3月10日までの11日間開催した。
議案21件追加議案2件、発議1件を承認可決した。
一般質問は、3月8日に10人が登壇し村政全般を質問した。

議案

- * 山形村道路線の認定について
- * 山形村固定資産評価審査委員会条例の一部を改正する条例について
- * 山形村手数料徴収条例の一部を改正する条例について
- * 山形村霊園条例の一部を改正する条例について
- * 山形村環境基本条例の一部を改正する条例について
- * 認可地縁団体の印鑑の登録及び証明に関する条例等の一部を改正する条例について
- * 特別職の職員で非常勤の者の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例について
- * 山形村消防団員等公務災害補償条例の一部を改正する条例について
- * 令和3年度山形村一般会計補正予算（第9号）

- * 令和3年度山形村国民健康保険特別会計補正予算（第3号）
- * 令和3年度山形村後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）
- * 令和3年度山形村介護保険特別会計補正予算（第4号）
- * 令和3年度山形村清水高原簡易水道特別会計補正予算（第2号）
- * 令和4年度山形村一般会計予算
- * 令和4年度山形村国民健康保険特別会計予算
- * 令和4年度山形村後期高齢者医療特別会計予算
- * 令和4年度山形村介護保険特別会計予算
- * 令和4年度山形村清水高原簡易水道特別会計予算
- * 令和4年度山形村水道事業会計予算
- * 令和4年度山形村下水道事業会計予算
- * 令和3年度山形村一般会計補正予算（第10号）

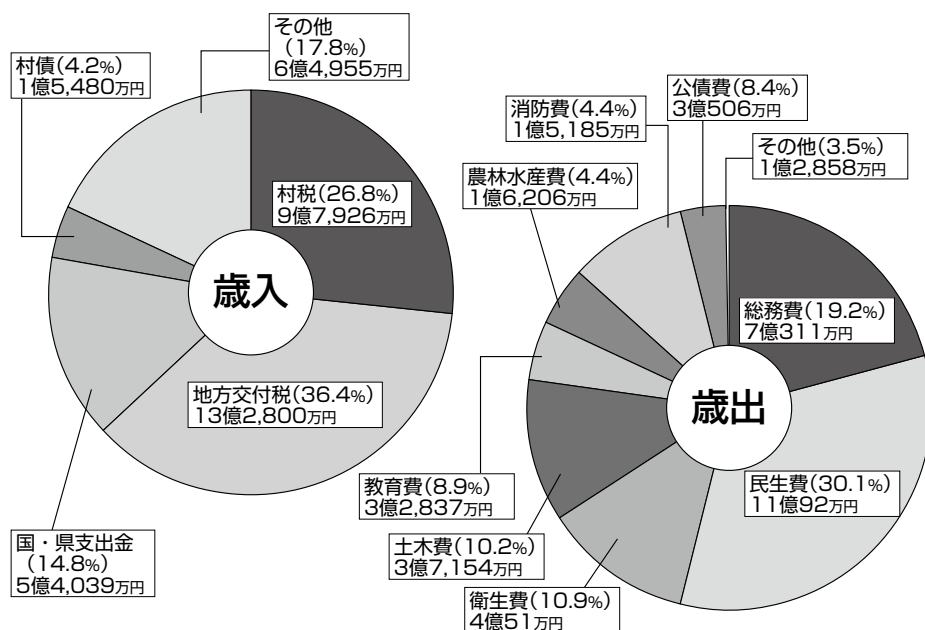
同意

- * 監査委員の選任について同意を求めることについて
- 小坂 住吉 誠 氏
- * 山形村教育長の任命につき同意を求めることについて
- 下竹田 根橋 範男 氏（再任）

発議

- * ロシアによるウクライナ侵攻を強く非難する決議

◆令和4年度 予算 一般会計 総額36億5,200万円



国民健康保険特別会計	10億4,372万円
後期高齢者医療特別会計	8,378万円
介護保険特別会計	6億8,796万円
清水高原簡易水道特別会計	2,853万円
水道事業会計	2億2,713万円
下水道事業会計	4億986万円

一般質問

議員10人が

村政を問う

一般質問は3月8日に行なわれ、議員10人が村政課題を質問した。
本庄村政の新年度施政方針を受け、「コ

福澤倫治議員

村の福祉行政と今後の対応について

村長 2025年問題を控え需要が増加すると予測

Q 村の福祉サービス事業所の相次ぐ閉鎖に伴う村長の考えと、社会福祉協議会に力を貸していただけないか。

A 地域福祉の中核を担ってきた社会福祉協議会であるが、介護職の重要性が増す一方で、忙しい・給与が安い・体力が必要なにより、人材不足が常態化している。

今後、団塊の世代が75歳を迎える2025

竹野入恒夫議員

令和4年度の登録児童の見込みは

村長 利用希望者調査で181人

放課後児童クラブの運営について。

Q 最近の利用状況と令和4年度の登録児童の見込みは。

A 令和3年度当初に161人でスタートした。令和2年度の同時期と比較すると25人の増加となり、ふれあい児童館だけではすべての児童を受け入れることが困難な状況のため、

トレイニングセンターの教養室を拠点として第3ちびっこ楽舎を新設し運営を行なう。通年登録者は、2月末現在158人の児童の登録が

「コナ感染症対応」「人口減対策」「行財政改革の推進」を主体に議論が活発に展開された。

年問題を控え、行政の立場からも施設入所やデイサービスの受け皿も配慮しながら、地域全体で高齢者を支える姿勢がより重要になると考えている。

Q 複合施設建設検討委員会の進捗状況と、今後の考え方について。

A 検討の詳細については、3月14日にとにかく予定だ。

今後は、報告書をたたき台に、複合施設整備推進委員会において、具体的な調査・研究をお願いしたいと考えている。

その他、介護保険の認定状況について質問した。

ある。令和4年度の登録児童の見込み数は、昨年の12月に事前の利用希望者調査を行なったところ、181人の利用希望があった。

Q 「運営にあたっての課題について」施設面・職員体制は確保されているのか。

A 大幅な利用者の増加が見込まれており、トレイニングセンターの教養室では受け入れが困難なことが予想され、他の部屋の占有も難しいことから小学校の教室等の利用について関係機関と協議を行なっている。支援員の確保については、何とか充足しているが、引き続き職員の確保を行なっていく。

その他、穴観音様について質問した。

百瀬 章議員

消防団員の処遇改善と負担軽減は

村長 令和4年度から団員報酬並びに手当の支給方法の見直しに取り組んでいく

Q 消防団員の条例定数と実際の人数はどうなっているか。

A 条例定数は183人で実人員数も同じである。

Q 団員確保のための方法は何か。

A 消防団員の確保は消防団員が地域を回り各戸に声がけしている。村としては消防団員募集のチラシを各戸に配布している。

Q 消防団員の平均年齢及び定年年齢は何か。

A 平均年齢は34歳で、東筑摩郡5村のうちようど真ん中となっている。条例で定年年齢は決めていないが、各分団で内規のようなものがある。

Q 災害などで消防団の活動が長期化した場合の対応はどうなっているか。

A 災害時の搜索活動や復旧活動が長期化した場合、自宅の被災や自身の仕事の都合など様々な状況を考慮しながら、団員が無理をしない範囲で、活動できるよう消防団幹部で体制等について検討していくことが必要であると考えている。

Q 団長や団員からの要望はあるか。

A 消防団員の装備充実や消防機材の整備などがある。

その他、気候非常事態に関する決議について質問した。

小林幸司議員

連絡班未加入世帯の推移と要因は

村長 昨年12月末現在で96世帯32.4%が未加入

Q コミュニティ検討委員会での意見報告を踏まえての対策は。

A 連絡班の統合・再編・役の見直しや、加入金、負担金への村の助成制度の拡充を検討していきたい。

Q 未加入世帯への配布物の現状は。

A 役場・トレセン・いちいの里・ふれあい児童館の4つの公共施設に取りに来てもらうようをお願いしているが、生活に関わる事柄、特に防災（ハザードマップや地域防災計画）などは各戸に配布しなければいけないので今後検討して早急に配布したいと考えている。

Q 今後起こりうる災害時の避難シミュレーションは確立しているか。

A 村で考えられる災害は地震・風水害、火山そして新型インフルエンザ等感染症かと思われる。大前提としては一人ひとりがどのように行動して避難するか家族で確認しあい、隣近所での安否確認ができる共助が大変重要である。地域の自主防災会を中心にした防災訓練を実施し、村としても広報活動や防災教育を行なうことが重要であると考えている。

A その他、公民館や地域役員の見直しについて質問した。

春日 仁議員

村の公共交通・高校生の通学バスについて

村長 村の公共交通に関して検討する組織（委員会）を設置する

Q 村の公共交通に関して検討する組織（委員会）の委員構成は。

A 村内の公共交通に関わりの強い方、実際に利用される高校生や小中学生の保護者の方、村内の福祉バスの関係の方など全体で15名以内を考えている。

Q 高校生の通学バスについて、まずはアンケート調査や試験的なバスの運行を実施してみても。

A 第6次総合計画のアンケートによると「公共交通の整備」は、重要度は高く、満

小出敏裕議員

これからの避難所の在り方を問う

村長 研究と検討を加える必要がある

Q 指定避難所の数と収容人数は。

A 避難所は13箇所、収容人数総数は4千72人。

Q 避難所のレイアウトと運営マニュアルの有無及び備蓄品について。

A 第一の避難所である、トレーニングセンター体育館のレイアウトと運営マニュアルは作成済み。食糧は2千205食を備蓄目標としている。

Q 新型コロナウイルス専用避難所は。

A ミラ・フード館を専用避難所とする予定。

Q 小学校の教室を避難所にできないか。

足度は低いという結果であり、「最も優先的に取り組むべき分野」の位置付けとなっている。令和4年度に村内の公共交通に関して検討する委員会を立ち上げ、議論を深めたい。

Q 子どもの居場所づくりや、児童館の負担軽減の目的で「山形っ子タイム」や「やまがた未来塾」の実施日を増やしてみてもどうか。

A 児童館の一部の負担軽減や、子どもの居場所づくりにつながるものと考えられる。来年度の「山形っ子タイム」の運営状況を見ながら、その次の年度に向けて回数を増やすことや、取り組み方法等の在り方について研究を進めたい。

A 再開時には、消毒作業等様々な対応が必要であり、教室は避難所として考えていない。

Q 高齢者・障がい者など災害弱者への支援は。

A 要配慮者の支援は、災害時要支援者名簿を基に、地域の皆さんと一緒に行動が必要がある。

Q LINE公式アカウントを利用した新しい情報発信とLINEを利用できない人への対応は。

A 本システムは、村民が自分の欲しい情報を欲しい形で取得するものであり、令和4年度当初予算で計上している。LINEを利用できない人には、もう少し研究と検討を重ねる必要がある。

Q 村民の防災に対する意識付けは。

A 多くの村民が参加する防災訓練の企画、広報活動、小学校等への防災教育を行なうことが重要である。

大池俊子議員

新型コロナウイルス対策 小学校休業等対応助成金の活用を

村長 小学校を通じて周知している

Q 山形村でも、ピア山形の集団感染や小
学校の学級・学年閉鎖の出る中、住民の
多くは不安になっている。現状を正確に知ら
せる対策は。

A 県から毎日発表される「市町村ごとの
感染者数」と県のホームページの「年代、
性別、職種の関連情報」のみである。

Q 学級閉鎖で保護者らも仕事ができない
状況も出ている。家計への影響も懸念さ
れる。「小学校休業等対応助成金」の活用を。
利用申請についての依頼文書を保護者経由で
出せるよう、村としても準備をしてほしい。

上條倫司議員

住んで良かったと思える村づくり

村長 住みやすい、住みがいいのある、住み続けたい

Q 村政5年目というところ、幅広い政策を打
ち出す時だと思うが、なぜ企画振興課か
らアンケートが出されたのか伺いたい。

A 令和5年度をスタートとする第6次総
合計画の策定を令和3年度、4年度の2
か年をかけて進めている。この総合計画は、
村に多々ある計画のなかの最上位計画にあた
り、令和5年度からの先10年間の目標を定め
た計画になる。その計画により多くの住民の
皆さんの願いや想いも反映するためにアンケ
ートを実施した。

Q 調査対象者2千500名、有効回収数1千
362名、回収率54.5%をどう思っているか。

A 小学校を通じて保護者に周知するよう
お願いしている。保護者の負担も大きい
と考えられ、この制度をご利用いただければ
と考える。

Q 関係者にPCR検査をしてほしいが。

A 昨年10月に、「新型コロナウイルスワクチン未
接種の村内在住者」で希望者34名に配布
した。

2月以降は、妊婦に母子手帳交付時に希望
の有無を確認し、本人と同居家族を対象に配
布している。必要とする方が使用できるよう
運用を変更している。

その他、子どもの医療費18歳までの窓口無
料について質問した。

A 前回の第5次総合計画策定時のアンケ
ート回収率は44.9%後期基本計画の策定時
のアンケート回収率は37.9%であった。今回は
より簡単にアンケートに回答いただけるよう
にインターネット回答を導入するなど回収率
アップに努めてきた。前回2回と比較しても
今回の回収率54.5%は評価できるものと考えて
います。

Q 「住みよい村か」という質問に対して、
6割を超える方が「そう思う・ややそう
思う」と回答しているが、この評価をどのよ
うに受け取っているのか。

A 6割を超える方々に住みよい村につい
て評価いただけたことはありがたいと感じ
ているが、前回、前々回と比較すると、質
問のニュアンスも若干違いがあるものの、減
少している。住民の方々から「住みやすい、
住みがいいのある、住み続けたい」と評価さ
れるような村づくりが必要だと考える。

新居禎三議員

健康で長生きできる環境整備は

村長 広報で情報提供や出前講座を行なう

Q 健康づくり推進員が廃止されるが、村
民の健康増進のための知識の普及や意識
の高揚など、どのような体制で行なうのか。

A 広報を用いて検診や健康に関する情報
をより細かく提供し、サロンなどの自主
活動グループに出前講座を行なうことで知識
の普及に努める。今までのような集団での健
康講話は難しいので他の取り組みを参考にし
ながら知識の普及を模索する。

Q 特定健診の受診率はどのような動きか、
また向上に向けた方策は。

A 過去5年間の受診率は令和2年度の感
染症流行の影響を除けば上昇傾向にある。
令和3年度も2年度より上昇していると思わ
れる。受診率向上のために令和4年度からは、
在宅保健師による電話での受診勧奨や未受診
者の把握を行なう。

Q 今後、後期高齢者が増加していくと思
われるが健康寿命延伸のために、どのよ
うな施策を実施していくのか。

A 平成30年度から、認知症地域支援推進
員を配置、推進を行なっている。「予防」
「医療・ケア・介護サービス・介護者支援」
に関して朝日村と共同で認知症初期集中支援
チームを設置し事例検討会や医師や介護関係
者での検討会をそれぞれ実施している。

その他、災害時の避難所対策・外国人への
情報伝達について質問した。

「住宅リフォーム補助制度」を再開し村内に活力の注入を!!
村長 消費喚起の施策として適正か慎重に判断したい

Q コロナ禍で、経験したことのない長期にわたる自粛生活による閉塞感を打ち破る策として、行政主導で、継続的に村民の総力でバックアップする「住宅リフォーム補助制度」を再開し活力の注入が求められる。

A リフォーム制度の需要がどれだけあるかは未知数ではあるが、山形村経済の消費喚起の施策として再開が適正なのかどうか前回の補助制度の課題を整理した上で慎重に判断したい。

Q 村内施工業者の皆さんの意向調査を行ない、現状に即した新たな制度設計に着手願いたい。

A 疲弊した村内経済を少しでも上向きにしていくためには、できるだけ多くの村内事業者の皆様に登録していただき、より多くの村民が工事発注していただける制度が望ましいと考える。

Q 将来展望として、新たな補助制度が地球温暖化対策に向けた「省エネ・リフォーム制度」への道筋に、次期ステップとして発展的につながる期待感もあるが。

A 自治体全体がカーボンニュートラルを目指すことを目的とした事業は、それに特化した設備のみを補助対象としている。近隣の取り組み状況も参考に研究していきたい。その他、第6次総合計画への橋渡し年度に向けて、「地域コミュニティ」の施政方針について質問した。

☆☆わたしの思い☆☆
「議員活動4年を終えて」

村民の皆さんのご支援・ご鞭撻をいただき、村会議員4年間の任期を終えることができました。誠にありがとうございました。今期務めた12人の議員が、議員活動を振り返りました。

議員活動を振り返って



三澤 一男

中国の武漢から発生したといわれる新型コロナウイルスは次々と変化し感染力の強いオミクロン株が第6波として、村内でも感染者が出ています。また地球規模の気象変動による災害の多発の懸念や地域課題では風食防止対策もあります。議員としては村民の皆さんが安心して生活できる村づくりに注力してきました。

議会の活性化の課題として議員間討議、議会と村民の懇談の場、村長への提案等をもう一歩進められなかったことを反省しております。

末筆ながら、4年間議長として支えていただいた村民の皆さん、村職員、議員各位には心より感謝し退任の挨拶とします。

議員活動4年間を振り返って



大池 俊子

この4年間は、前半と後半では新型コロナウイルスの出現で180度の転換でした。会議のあり方も、三密を避けるため議場へ移り、一般質問も40分間への短縮になり、地域の皆さん

んからの要望なども消化不良になってしまったところもありました。

県外視察も、そして県内視察さえも後半は出ず残念!!

県外視察で、埼玉の子ども食堂・子育て支援、富山・岐阜の歴史館、回帰センター・富山型デイケア、その後の議員活動の基となっています。新型コロナウイルス禍での議員活動は、常に「もつと何かできることはないか」と悩みました。ズームによる研修はもの足りなさを感じます。一日も早くコロナが無くなり、自由な議員活動ができることを願うばかりです。

4年間を振り返って



春日 仁

この任期を一言でいうと「無我夢中」で、あっという間の4年間だったと感じています。また、この4年間多くのご意見・ご要望を寄せていただきました皆様、心からの感謝を申し上げます。ありがとうございます。

議員活動では、福祉文教常任委員長を仰せつかり、諸先輩の方々からご指導をいただきました。身の上以上の仕事をさせていただきました。

定例会の一般質問では、子育て支援を中心に、地域課題を織り交ぜながら16回の質問をさせていただきました。いただきましたが、時に議論がかみ合わないこともあり、反省も多かったです。

コロナ感染症の影響もあり、議会の改革は足踏み状態です。議員のなり手不足・議会からの発信の方法・開かれた議会等々、課題を残したと感じています。

わたしの思い



上條 倫司

令和2年の1月から新型コロナウイルスが日本国内での感染が確認され、得体の知れないウイルスに世界中が振り回され、今はオミクロン株による第6波がピークアウトしないコロナ禍真つ只中ですが！ 平和の祭典北京オリンピック・パラリンピックの真つ只中に、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻は、住んでいる所を破壊し、生命を奪い核兵器を使うと脅かしています。国連の常任理事国のロシアの大統領のプーチンはまるでテロリストです。早く捕まえて。私の頭の中は今フリーズしています！

4年間を振り返って



竹野入 恒夫

平成30年3月25日の村議会議員選挙で12人が決まりました。6期目2人・3期目2人・2期目1人・新人が7人でスタートを切りました。議会は、総務産業常任委員会・福祉文教常任委員会と2つの委員会構成されています。私は総務産業常任委員会に属し、委員長として4年間務めました。令和元年10月29・30日に行政視察に行ってきました。志摩市のSDGs未来都市計画。総合計画を基礎として重点計画を策定持続可能な社会を実現する、SDGsは世界中の国々や企業団体が共有するまちづくりの目標です。まだSDGsが騒がれない頃の先進地視察で勉強になり、村づくりに活かしました。その後はコロナ対策に追われ活動が制限されました。

4年間の一般質問を振り返り



福澤 倫治

●まず最初に重度障がい者の入浴サービスが週2回、社会福祉協議会の協力で実現できたこと。

●次に、三間沢川の未完成の護岸工事箇所5カ所の工事の目途がついたこと。

●令和6年度完成予定

●次に、子どもたちの通学場所にあった危険な建物、旧役場「伝承館」の取り壊しが終了し新たな建物の建築に向けての委員会がスタートし、検討に入りました。

4年間、議員全員が纏まり、村政発展について討論を行なっていました。

しかし、残り2年間は、コロナの蔓延により議員・理事者・職員とのコミュニケーションが難しい時でした。

議員活動を振り返って



小出 敏裕

議員になった当初、初めての経験に戸惑ったことを思い出します。予算書や決算書などを前にして、「これは大変なことだ」と思ったものです。

福祉文教常任委員会の視察では、見聞したことを村で活かせないかと、実情や課題を中心に学んできました。

一般質問では、福祉教育行政を主に22項目の質問をしました。

任期中に、新型コロナウイルスの蔓延を経験し、多人数での意見交換ができなかったことは

残念でなりません。

将来を担う子どもたちをはじめとし、全ての村民が安心・安全に生活できる村づくりが重要であると感じました。

豊かな自然をいつまでも



新居 禎三

大阪で生まれ育った私が、各地を転々としたあと、自然環境に恵まれた山形村に居を構えて24年になろうとしています。

何よりも、『ちよつと田舎・ちよつと都会』と言われ、気候風土はそれなりに良く暮らしやすいところだと思いますが、いろいろな課題もあります。

少しずつより良い方向になるよう提言ができたのかなと思っています。

いつまでも自然豊かで、誰もが住んで良かったと思える山形村が続くことを願っています。ありがとうございます。

村議会もおすすめ

山形村のLINE 公式アカウントはじめました



山形村では、皆さまにより手軽に情報を受信していただくために、令和4年4月1日から、LINE公式アカウントを開設しました。

「ほしい情報」を設定することで、お手元のスマートフォンなどに、山形村から情報をお届けすることができます。ぜひ、下のQRコードから「お友だち登録」をしてください。



※LINEアプリをダウンロードされていない方は、お持ちのスマートフォン等にダウンロードが必要です。

議員活動4年を振り返って



小林 幸司

議員活動を始めるにあたり、村の行政に対してかなり疑問や憤りを感じていました。

何事を行なうにも時間がかかりお金もかかる。もっとスピーディーにできないものかと思っていました。しかし、いざ行政の中に入ってみると、小さい事から大きな事まで様々な事案があり、その優先順位を決め予算を立て執行していかねばならないという流れがあり、これは確かに時間・労力・お金がかかると思いました。

いかに有効にかつ村民の総意に応えられるか議会と行政がしっかりと検討し合い、より良い方向へと進んでいかねばならないと感じています。目の前のことも大切ですが、5年先10年先を見据えた計画が大切であると思っています。

4年間を振り返って



百瀬 章

行政経験のないまま村議会議員に立候補し、当選させていただきました。最初の1年間は行政のシステムを理解し、議員本

来の役割を確認することに一生懸命でした。新人ながら村議会を背負って、その仕事に取り組み始めた矢先に、新型コロナウイルス感染症が蔓延し、直近2年間は会議や催しなどが自粛され、残念ながら、これといった活動ができませんでした。令和5年度から第6次山形村総合計画がスタート

トしますので、先を見つめ、国を挙げてのDX推進やゼロカーボンなどに、取り組みたいと思っています。

地域コミュニティ・変質への対応



大月 民夫

連絡班加入の状況が、約20年前は92%だったのが、現状では67%まで落ち込んでいくという現実。は、今後の更なる低下推移への不安感として計り知れないものがあります。

連絡班組織の果たすべき役割は

①きめ細かな情報発信の速やかな伝達組織。

②自主防災組織として、平時から備える体制づくり。

③ごみ処理を始めとする、地域の環境整備。

以上の3点であることを、全ての村民の皆さんに再認識を図る必要性を感じます。

加入率の高かった時代には利便性を発揮した「連絡班依存型スタイル」による、各種行事や事業の運営方法の見直しに、勇気をもってメスを入れないと、地域コミュニティ変質への対応は至難の業と言えそうです。

議員活動を終えて



百瀬 昇一

私は地域に根差した活動を念頭に、上竹田区長に続いての議会議員活動でした。

特に地域の環境整備では、【づく出して 守る環境 おらが村】で始まる、『第4次山形村環境整備計画』が策定さ

れました。内容がいままでにない具体的で、分かりやすくまとめられています。この計画が村民に理解され、浸透し、実行されることを信じ、願っています。また、審議中の第6次総合計画がより具体的で、実行性のあるものになるよう願って止みません。

最後に、緑豊かな山形村が、【ふるさと創り】いっぱいになることを願いながら、4年間ありがとうございました。



編集後記

4月22日をもって今議会の任期を満了しました。

この4年間村民の皆様には、原稿の依頼などご協力いただきありがとうございました。心より感謝申し上げます。今後

もよろしく願っています。皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げますとともに、一日も早いコロナ感染症の終息と、争いのない真の世界平和を願います。(春日 仁)

発行責任者

議会広報編集特別委員会

議長	三澤 一男
委員	上條 倫司
委員	小林 幸司
委員	春日 仁
委員	新居 禎三
委員	大月 民夫
委員	福澤 倫治

